

Superendroller LIVE “scene 05”

3 6 5 days

3 6.5 °C

企画プロデュース: Superendroller 濱田真和

制作協力: 有限会社U.F.O.カンパニー

「365日、36.5℃」 企画意図

学生時代、急に自殺した友達。遺書はなく、彼がなぜ死んだのか今も定かではなくて。他にもHR中に急に女教師の顔面を蹴った友達や、校内でスニーカー盗難事件が何度もあったりもして…

これらの行為は許されない過ちだと思うけど、反面、なぜそんな行動を起こしたのか、ずっと心に引っかかっています。『彼等は何で間違えたのか？』

きっとそれぞれ悩みや葛藤があったらうし、いやいやそんなの綺麗事で、全く理由のない愚かな行動だったのかもしれない。

毎日目を背けたくなる情報が溢れるこの世界で、そんな「間違い」の原因を探るのはすごく難しい。大袈裟かもしれないけど、『なんで戦争が起こるのか？』その答えに人それぞれの正義があるのと同じようなことだと思います。

わからないことだらけだけど、そんな〈間違えた彼等〉なりの世界を描くことが、現代の世の中を描くことに通じると思い、『365日、36.5℃』を書きました。

〈間違い〉を肯定するわけではなく、ただ、〈間違えた彼等〉の人生やその先の未来に、誰かひとり隣で笑ってくれていたら、乗り越えようとしていたら、混沌とした世界でも美しく映る瞬間があるかもしれない、人間の根っこの強さみたいなものを見出せるかもしれない、と。

そんな願いを込めて、現代を生きるすべての人に、体温を感じる青春群青劇を届けます。

こんな世界だから「このままじゃ終わりたくない」、宛名のないラブレター。

あらすじ

憧れの先輩は、僕を助けて自殺した。
その人は、好きなあの娘の好きな人だった。
「命の使い方がわかんねー」

2019年。輪星(24)はもう1年近く、たった一通の手紙も書けずにいる。東京で偶然、高校の同級生の千晴と水原に再会する輪星。7年前の事件以来、行方をくらましていた輪星は、事件の真相を2人に語り始める。

2010年。輪星(15)と朝陽(15)と同じ団地に住む憧れの兄貴的存在・青海(18)の自殺遺体が突然発見される。輪星は、朝陽に青海のことを忘れさせようとするも、青海のことが好きだった朝陽は受け入れられず。すれ違う2人……

2012年。群青高校2年生になった輪星(17)は、他校の仲間とスニーカー泥棒に明け暮れる不良な毎日。朝陽は優等生でバスケット部のマネージャー。そんな夏の終わり、転校生の大海景色に、どこか青海の面影を感じる朝陽。次第に惹かれ合う朝陽と景色。

それを良く思わない輪星だが、「スニーカー泥棒の仲間に入れて欲しい」と、レアものスニーカーを盗んできたその景色のイカれた行動により、仲を深めていく輪星と景色。ある日、輪星が青海の形見のスニーカーを売ろうとすると、それは青海が人を襲って盗んだものだったと知った輪星は、景色の行動や考えに、ずっと謎だった青海の自殺の真意を重ねていく。青海の真相を朝陽には切り出せない輪星。そんな輪星をよそに「景色が青海に似てて好き」という朝陽に、輪星は「それは結局青海の身代わりってことだろ」と悪態をついてしまい、衝突する。

知らず知らずのうちに、自身が青海の後を追っていると知った輪星。スニーカー泥棒から足を洗おうとした時、仲間の一人が逮捕される。もう朝陽を悲しませたくない輪星は、景色のスニーカー泥棒の罪を自身が被り、自首・高校退学することで景色を守り、朝陽を悲しませまいとする。しかしその直後、景色が担任女教師の顔面を蹴り、失踪。景色の謎の行動を心配する朝陽は、「死ぬかもしれないんだよ?」と、景色を追う。輪星は止められず、2人はまたすれ違う。朝陽と景色は交通事故を起こし、それ以来、皆バラバラになった。

2019年。自身の間違いを悔やむ輪星。ただ朝陽に幸せなって欲しかっただけなのに。そんな輪星に千晴が「朝陽から手紙を預かってきた」と、朝陽からの手紙を渡す。そこには朝陽からの7年越しの言葉が綴られていた……

「365日、36.5℃」 企画概要

- 1、脚本・演出：濱田真和(Superendroller)
- 2、公演期間：2019年10月30日(水)～11月4日(祝月) 計10公演(変更の可能性有り)
- 3、会場：すみだパークスタジオ シアター倉
- 4、目標動員：1700人
- 5、キャスト：計10名程度予定 (※2019年5月頃～オーディションも実施予定)
- 6、チケット料金：4000～4500円予定

○おおまかなスケジュール

- | | |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| ★2019年4月～5月 | 公演概要・主演情報解禁、プレスリリース。オーディション募集スタート。 |
| ★2019年6月～7月 | キャスト・スタッフオーディション実施。 |
| ★2019年8月～随時 | オールキャストスタッフ決定 → プレスリリース、全ての詳細発表予定。 |
| ★2019年9月末～ | チケット発売開始。また、公演日の3週間～1ヶ月前から都内稽古場にて稽古開始。
(※稽古による拘束時間は実質2～3週間程度。スケジュール調整可。別紙参照) |
| ★2019年10月28、29日 | 小屋入り・仕込み・場当たり。(※28日はキャストはOFF、29日～オールスタッフ・キャスト参加) |
| ★2019年10月30日 | ゲネプロ・初日 |
| ～11月4日 | 本番・千秋楽 |

Superendroller LIVE “scene ～” 作品とは

- 2014年、脚本家・演出家・俳優の濱田真和が、自身のアーティスト活動の発信の場として Superendroller 立ち上げ。以降、全てにおいて濱田の手と目が届く範囲での創作を絶対条件に、年1～2本のペースで舞台・映像作品を発表。
- 家から出ずに沢山の作品が観れてしまう便利な時代に、「わざわざ会場まで足を運び」、「実際に体感する」というアナログな演劇のスタイル＝「LIVE」が新しい価値になると考え、また、1回1回がムーブメントの様な作品になるように、「次世代」アーティストとのコラボレーションや、「次世代」俳優のキャスティングに重点をおき、商業でもアングラでもない、例を見ない唯一無二の完全オリジナル企画を上演し続けている。
- 今作品でプロデュース6作品目。濱田の実体験から、人の死を経て「残された人たち」のその後の生きていく様を描いた、「死生観」や「青春性」をテーマとした作品がほとんどである。今作「365日, 36.5℃」では、そのテーマを踏襲しつつ、人間特有の衝動と本能を切り取り、見てくれた人にも理屈や言葉でなく、本能に訴えかけることに挑戦する。

○過去出演キャスト

磯村勇斗／古館佑太郎(出演・音楽)／小川紗良／樋井明日香／岡野真也／小林竜樹／新井郁／福永マリカ／川村亮介
熊谷弥香／椎名琴音／島田惇平／いのうえあい／光根恭平／田原靖子(カムカムミニキーナ)／千代将太／石川瑠華
高山璃子／石塚かえで／小林英樹／山田真由子／小木戸利光／久保真一郎／横井寛典／竹田愛／西村竜真／明石泰葉
フカツマサカズ／鹿島康秀／濱田真和 他

○コラボレーションアーティスト・ブランド

2(読み:ツー・音楽)／宮内優里(音楽)／渡辺敬之(照明作家)／鳶村吉祥丸(写真家)
Porter Classic(衣装協力)／ふくしまオーガニックコットン 他

脚本・演出：濱田真和 (はまだ まなと) プロフィール

U.F.O.カンパニー所属。2009年俳優活動スタート。
2011年に初の脚本作品を上演。2013年、エドガー・アラン・ポー『モルグ街の殺人』原作の脚本舞台『Moonlight Rambler〜月夜の散歩人〜』(主演: **本郷奏多**・**横浜流星**) を上演。

2014年、Superendrollerを立ち上げ以後、全ての脚本・演出・プロデュースを手がけ、自身も出演。2018年3月に**磯村勇斗**主演舞台「hammer & hummingbird」を企画プロデュース・脚本演出を手がけ、**チケットは即日完売**。話題を集める。

他にも、2018年全国劇場公開した、吉田凜音・久間田琳加・横田真悠主演の映画「ヌヌ子の聖★戦」(**深川栄洋**企画プロデュース)の**オリジナル脚本**や、**古舘佑太郎**率いるバンド2「FALL FALL FALL」Music Videoの監督(出演: **杉咲花**)など、活動の場を広げている。



Superendroller プロフィール

(読み: スーパーエンドローラー)
俳優・シンガーソングライター・モデル・演出家・脚本家などが所属し、アーティスト活動を展開するクリエイションコミュニティ。

過去、『sea, she, see』(シーシーシー)・『blue, blew, bloom』(ブルーブルーブルーム)・『monster & moonstar』(モンスターアンドムーンスター)・『hammer & hummingbird』(ハンマーアンドハミングバード)など、音楽・宮内優里、照明作家・渡辺敬之、**古舘佑太郎**が率いるバンド「2」など、**気鋭のアーティストとコラボレーションした舞台作品を上演**。

更に、渋谷のelephant STUDIOという“場所”や、福島県いわき市で震災以降に発足した復興プロジェクト、“**ふくしまオーガニックコットン**”などとコラボレーションした作品『tane & tiny』(タネアンドタイニー)を上演。例を見ないコラボレーションや、演劇以外の新たな客層を取り入れる事で話題を集める。

また、定期的に福島いわきに訪れ、収穫や種植えなどの手伝いをしながら、“ふくしまオーガニックコットン”や、そこに携わる人たちのことを、世に伝える活動を続けている。





sea , she , see (2015)

主演:濱田真和、岡野真也



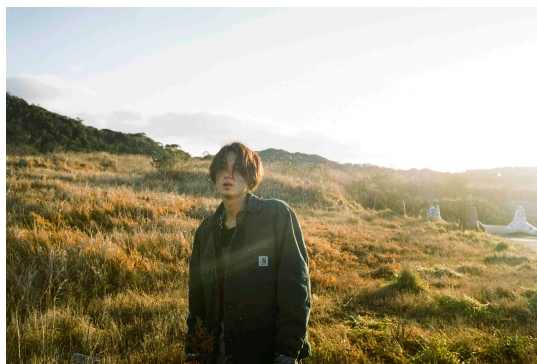
blue , blew , bloom (2016)

主演:古舘佑太郎



monster & moonstar (2017)

主演:樋井明日香、椎名琴音、小川紗良



hammer & hummingbird (2018)

主演:磯村勇斗



tane & tiny (2016)

主演:熊谷弥香